

ショートプログラム参加報告書/Short Program Report

氏 名 / Name			
所属学部・研究科 / School/Graduate School		情報科学部情報科学科 (School/Graduate School) 4年次 (Grade year)	
学生番号 / Student ID			
留学先大学 / Host University		インド	
プログラム名称 / Name of Program		Learn In Bharat Program 2025	
プログラム期間 / Period of Program		From: 2025 年 8 月 20 日(YYYY/MM/ DD)～ To:2025 年 8 月 30 日(YY/MM/ DD)	
1. 渡航について / Flight Information			
出国年月日 / Date of Departure		2025 年 8 月 20 日 (YYYY/MM/ DD)	
経 路 / Route		羽田空港 → デリー空港 → アーメダバード空港	
現地での出迎え / Pick-up at Destination		有 / Yes (SIC スタッフ・ガイドさんなど)	
帰国年月日 / Date of Return		2025 年 8 月 30 日(YYYY/MM/ DD)	
経 路 / Route		バンガロール空港 → 成田空港	
2. 所要経費について / Expenses			
所要経費 / Expenses	総額 / Total Amount		23 万 円 / yen
	内訳 / Details	渡航費（往復） / Flight Ticket (Round Trip)	3 万 円 / yen
		保険料 / Travel Insurance	0 円 / yen
		宿泊費（住居費） / Accommodation Fee	0 円 / yen
		食費 / Meal Cost	0 円 / yen
		その他費用(プログラム参加費) / Others ()	20 万 円 / yen
		その他費用() / Others ()	円 / yen
3. プログラム参加を通じて得た成果等 / Feedback through Your Participation in the Program			
○農村部の視察 農村部では、小学校や現地住民のご自宅、宗教施設などを訪問し、日々の暮らしの様子を実際に目にすることができました。都市部とは異なる生活環境や文化の中で、人々がどのように日常を営んでいるのかを肌で感じることができ、大変貴重な経験となりました。 また、現地で活動する「イノベーター」と呼ばれる方々の発明にも触れる機会がありました。たとえば、牛のふんを活用して、寺院で使用される日本の線香のような製品を製造していた方や、火葬の文化がまだ一般的でない村において火葬の仕組みを導入した方など、それぞれが地域の課題に対して自らの手で解決策を生み出していました。「なぜこれを作ろうと思ったのか」という問いに対して、「村で困っている人がいるから」という答えが返ってきたことが特に印象に残っています。マーケットインの発想が自然に根付いている様子から、事業やプロジェクトを進めていく上での本質的な視点を、改めて再認識させられました。 一方で、インフラの整備状況や教育水準については、都市部との間に依然として大きな格差が存在している現実も見受けられ、今後の地域開発や支援の在り方について考えさせられる場面も多有りました。			
OSMG（Suzuki Mortor Gujarat）・販売店の視察 マルチスズキの現地工場である SMG および販売店の視察も行いました。SMG の工場では、日本的な仕事の進め方がしっかりと根付いており、たとえば日本語での挨拶が交わされていたり、工場内の清掃・整理整頓が徹底されていたりと、日本的な職場文化が実践されている様子が印象的でした。 特に注目すべき点として、現地の従業員が自ら職場環境の改善を提案する文化があり、ボトムアップ型の現場改善が日常的に行われていることが確認できました。 また、販売店では、車両のカスタマイズをディスプレイ上で視覚的に選択できるシステムが導入されており、顧客にとって分かりやすく、満足度の高い購買体験が提供されていました。加えて、販売店内には教習場のような施設も併設されており、来店客がその場で運転免許の取得に向けた練習や手続きを行える仕組みも整っていました。これにより、車の購入から免許取得までが一体化されたサービスとして提供されており、現地に適したビジネスモデルの工夫を感じました。			
OIITH（インド工科大学ハイデラバード校） / SIC（Suzuki Innovation Center） IITH では、現地の学生や学長との交流の機会がありました。ディスカッションを通じて、インドの学生が日々どのような研究や活動に取り組んでいるかを知ることができ、大変刺激を受けました。文化交流としては、現地の伝統的な踊りを鑑賞したほか、日			

本のソーラン節や盆踊りをインドの学生たちと一緒に踊るなど、互いの文化を体験し合う貴重な時間となりました。中でも、スタートアップに取り組んでいる学生や、データサイエンスを研究している学生との出会いは特に印象的で、今後の学術的・実務的なつながりにも発展し得る有意義な交流が生まれました。

また、IITH 内にある SIC では、片岡先生より現地における研究の実情や、イノベーション推進の在り方についてお話を伺いました。

OGIFT CITY / T-hub / NASSCOM

これらの場所では、インドのスタートアップに関する基本情報から最新の動向まで、広範囲にわたる情報を得ることができました。GIFT CITY では、インド国内外の企業が集積し、金融サービスや高度なテクノロジーを駆使した事業が展開されていることが印象的でした。インフラが整備され、特にスタートアップにとって魅力的な環境が整っており、インドの成長分野における将来のビジネスチャンスが広がっていることを実感しました。

T-Hub では、スタートアップ支援の一環として、アクセラレーターやインキュベーターが提供するプログラムを通じて、現地の起業家たちが新たな事業を立ち上げている様子を目の当たりにしました。ここでは、特に農村部の生活向上、ヘルスケア分野、そして AI を活用したディープテック企業など、多様なジャンルのスタートアップが活発に活動していることがわかりました。

また、NASSCOM では、インドのスタートアップエコシステムを支えるための政策や支援策についての情報を得ることができ、数社のスタートアップ創業者とも直接交流し、それぞれが抱える課題やビジョンについて話す機会を得ました。

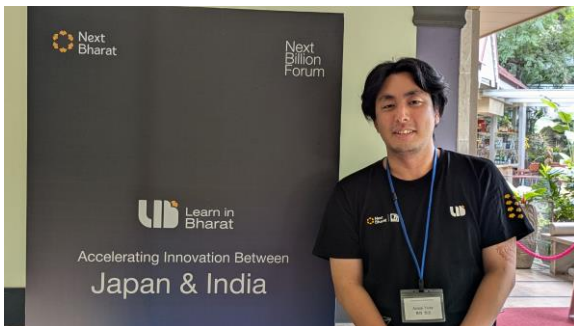
多くのスタートアップは社会的インパクトを重視しており、特に農村部や低所得層の人々に向けたサービスや製品を提供していることが印象的でした。インドのスタートアップエコシステムは、テクノロジーと社会的課題を結びつける力を持っており、今後さらに発展していくであろう可能性を感じました。

ONext Billion Forum

「Next Billion (次の 10 億人)」というビジョンを掲げる Next Bharat Ventures が主催するフォーラムに参加しました。このフォーラムでは、スズキの副社長をはじめ、さまざまな業界のリーダーや専門家の講演を聴くことができ、非常に貴重な知見を得ることができました。

フォーラムには、日系企業の現地駐在員や Next Bharat の出資先企業の代表者が集まり、互いに意見交換や交流を行う場となりました。特に、次の 10 億人をターゲットにした事業展開に関する話題が多く、インド市場の特性や、急速に変化する消費者ニーズに対応するための戦略について多くの企業が積極的に議論していました。

また、Next Bharat の出資先企業の代表者との交流を通じて、現地のスタートアップの取り組みや課題についても具体的に知ることができました。特に、これからの 10 億人に対してどのような製品・サービスを提供し、どのような社会的影響を与えるべきかという点について、多くのインスピレーションを得ました。



注/Remark) 報告書およびその内容は、留学希望者への情報提供のため、HP への掲載、事務室での閲覧や、大学の留学情報案内の作成のために利用させていただきます。/This report and its contents will be uploaded on the HUSA home page, browsed at the administration office and used for information regarding study abroad at Hiroshima University in order to provide information to students who desire to study abroad.

書類提出先(Word 形式、メールにて送付) / Where to submit (as Word format, by E-mail) :

広島大学国際室国際部留学交流グループ(留学交流担当) / Global Exchange Group : kokusai-ryugaku@office.hiroshima-u.ac.jp

ショートプログラム参加報告書/Short Program Report

氏 名 / Name	
所属学部・研究科 / School/Graduate School	統合生命科学研究科修士2年
学生番号 / Student ID	
留学先大学 / Host University	IITH など(国名/Country : India)
プログラム名称 / Name of Program	Next Bharat program (Maruti Suzuki)
プログラム期間 / Period of Program	From: 2025 年 8 月 20 日(YYYY/MM/DD) To: 2025 年 8 月 30 日 (YY/MM/DD)

1. 渡航について / Flight Information

出国年月日 / Date of Departure	25 年 8 月 20 日 (YYYY/MM/DD)
経 路 / Route	
現地での出迎え / Pick-up at Destination	有 / Yes Maruti Suzuki の方
帰国年月日 / Date of Return	25 年 8 月 30 日(YYYY/MM/DD)
経 路 / Route	羽田空→アーメダバード→ハイデラバード→バンガロール→成田

2. 所要経費について / Expenses

所要経費 / Expenses	総額 / Total Amount		0 円 / yen
	内訳 / Details	渡航費（往復） / Flight Ticket (Round Trip)	0 円 / yen
		保険料 / Travel Insurance	0 円 / yen
		宿泊費（住居費） / Accommodation Fee	0 円 / yen
		食費 / Meal Cost	0 円 / yen
		その他費用() / Others ()	0 円 / yen
		その他費用() / Others ()	0 円 / yen

3. プログラム参加を通じて得た成果等 / Feedback through Your Participation in the Program

- ・プログラム参加を通じて得た成果等を記入いただき、併せて HP に公開してもよい写真を2〜3枚程度、貼り付けてください。（写真1枚当たりの容量は、500KB以下に縮小して下さい）

Suzuki Next Bharat プログラムに参加し、インド特有の「Jugaad（柔軟かつ実用的な工夫）」精神を体感しました。また、統一決済インターフェース（UPI）が農村地域にまで急速に普及している実態や、国民IDシステムである Aadhaar の驚異的な普及速度が、インドの文化や国民性といかにマッチしているかを学びました。さらに、インドにおけるスタートアップ・エコシステムの活発さと事業展開のしやすさを理解することができ、自身の視野を広げる貴重な機会となりました。

最終日に令和の虎セッションというものがあり、Suzuki の副社長や MUFJ 銀行、兼松、商船三井をはじめとする企業の方々の前でプレゼンを行いました。結果として、投資、コラボレーションが実現し、9月以降日印連携活動を進めていく所存です。



注(Remark) 報告書およびその内容は、留学希望者への情報提供のため、HP への掲載、事務室での閲覧や、大学の留学情報案内の作成のために利用させていただきます。/This report and its contents will be uploaded on the HUSA home page, browsed at the administration office and used for information regarding study abroad at Hiroshima University in order to provide information to students who desire to study abroad.

書類提出先(Word 形式、メールにて送付) / Where to submit (as Word format, by E-mail) :

広島大学国際室国際部留学交流グループ (留学交流担当) / Global Exchange Group : kokusai-ryugaku@office.hiroshima-u.ac.jp